

toVO トヴォ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 2

民 研 修 セ ン タ ー



020

NO.

10031111

あおきと100家族、わたしたちのなれから





インタビュー

今号のご家族 ▶ 月館 重徳さん・久美子さん・信之介くん・京之介くん・雅ちゃん

撮影場所 ▶ 三沢市漁民研修センター(三沢市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶重徳さん「私は出先で車の中だったんですけど、揺れてねえ。あれやばい、これやばいって。うちは新聞販売店で、店に戻ったら、ちょうど夕刊が搬入されたところ。その後も余震が1回、2回…ってきて、それとかなりの強さで。海岸には大津波警報も出て、でも、とにかく夕刊の配達作業はしたんです。」▶信之介くん「学校で『あれ、地震かな?』と思ったらガタガタガタッと揺れだして。2階にいたんだけど、玄関のガラスが、割れるんじゃないかと思うぐらいガンガン揺れていた。」▶京之介くん「学校のパソコン室で、パソコンがすごく揺れて、机から落ちてきそうな感じで、壁時計が落ちて割れて。校庭に避難した後も余震が2回ぐらいあって、国旗掲揚台がすごく揺れて、それが一番怖かった。」▶重徳さん「夜は寒いし、停電で暗いし…だったけど、うちのおふくろが豆炭たいいて、暑いぐらいになって。小さい発電機を持っていたので、ライトやTVは点けました。」▶久美子さん「豆炭、大活躍だったよね。こたつに入れたり、鍋乗つけて料理したり。その日の夜はカレーにしました。数日持つし(笑)」▶重徳さん「電話も繋がらないから、翌日の朝刊が来るのかも分からなかった。それでも次の日、従業員がいつもの時間に来てくれて、『今日、朝刊発行されてるの?』って。助かったよね。」

●三沢も大津波の被害を受けました。▶久美子さん「この一帯は国道338号をはさんで、海寄りの土地が下がっていて。漁港に波が上がって…」▶重徳さん「第1波はそうでもなかったけど、第2波がかなり時間差があつて来て、それが大きかった。警報が出ていたけど、浜の様子を見に行った人が結構いて、胸まで波に

飲まれたとか、車をダメにしたとか、何件も聞きました。三沢には2方向から波が来たんです。前海からと、八戸方向からの横の波と。みんな『横から波が来た、それが怖かった』って言います。実は、うちの従業員の1人が、第2波で亡くなったんです。仕事の後、漁港の様子を見に行ってみたんで。…真面目な人でね、残念だったですね。」「三沢は『川目』という小さい川が一川目から六川目まであるんです。津波はそれを遡って、川沿いのお宅が被害を受けた。うちの配達エリアでも、全壊・半壊のお宅が十何軒ありました。」▶久美子さん「四川目地区では、大きな船が2艘ぐらい打ち上げられてた。」

●震災以降、心境に変化はありましたか?▶久美子さん「前は地震でも『平気だよねー』みたいなところがあったけど、今は『この後強くなるかも』みたいな意識は出ましたね。特に2番目(京之介くん)の反応が素早い(笑)」▶京之介くん「地震に対する危機感が強くなった。家族を大切にするようになった。友達とも仲良くしたい。」▶重徳さん「ここは六ヶ所が近い。核燃料サイクル施設に何かあれば、これもダメですから。安全だ安全だと言われてきたじゃないですか。でも福島を見て、原子力関連施設が近いという事実を意識するようになりました。」

●10年後は?▶重徳さん「家族みんな健康でいられれば一番いいと思う。」▶久美子さん「平平凡凡に楽しんで、毎日を過ごせたらいいと思う。どうせやるなら、楽しい感じがいい。」▶信之介くん「全然考えたことないなあ…。」▶雅ちゃん「サーティーワンのアイス屋さん?」▶京之介くん「とりあえずは、今は医者になりたい。」▶家族全員「ほおっ!」終

定期購読のお申し込み

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)／1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011／12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記

今回の撮影場所は三沢漁港地区の漁民研修センター。1階窓を覆うブルーシートが、今も大津波の爪痕を伝えます。月館さんご一家は、取り壊しが決まっているこの建物を記憶にとどめたいと、撮影場所に選んだそうです。岩手・宮城・福島の被害の前にかすみがちだけど、青森県も東日本大震災の被災地。忘れないでたいです。【前田ふひと】

東日本大震災・津波被災者チャリティー

tovo トヴ

2011年6月~2013年10月31日まで

¥1,966,136

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/ トヴ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶月舘 重徳さん・久美子さん・信之介くん・京之介くん・雅ちゃん

撮影場所▶三沢市漁民研修センター(三沢市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶重徳さん「私は出先で車の中だったんですけど、揺れてねえ。あれやばい、これやばいって。うちは新聞販売店で、店に戻ったら、ちょうど夕刊が搬入されたところ。その後も余震が1回、2回...ってきて、それ

もかなりの強さで。海岸には大津波警報も出て、でも、とにかく夕刊の配達作業はしたんです。

」

▶信之介くん「学校で『あれ、地震かな？』と思ったらガタガタガタッと揺れだして。2階にいたんだけど、玄関のガラスが、割れるんじゃないかと思うぐらいガンガン揺れていた。」

▶京之介くん「学校のパソコン室で、パソコンがすごく揺れて、机から落ちてきそうな感じで、壁時計が落ちて割れて。校庭に避難した後にも余震が2回ぐらいあって、国旗掲揚台がすごく揺れて、それが一番怖かった。」

▶重徳さん「夜は寒いし、停電で暗いし...だったけど、うちのおふくろが豆炭たいて、暑いぐらいになって。小さい発電機を持っていたので、ライトやTVは点けました。」

▶久美子さん「豆炭、大活躍だったよね。こたつに入れたり、鍋乗つけて料理したり。その日の夜はカレーにしたんです。数日持つし（笑）」

▶重徳さん「電話も繋がらないから、翌日の朝刊が来るのかも分からなかった。それでも次の日、従業員がいつもの時間に来てくれて、『今日、朝刊発行されてるの？』って。助かったよね。」

●三沢も大津波の被害を受けました。

▶久美子さん「この一帯は国道338号をはさんで、海寄りの土地が下がっていて。漁港に波が上がって...」

▶重徳さん「第1波はそうでもなかったけど、第2波がかなり時間差があって来て、それが大きかった。警報が出ていたけど、浜の様子を見に行ったら人が結構いて、胸まで波に飲まれたとか、車をダメにしたとか、何件も聞きました。三沢には2方向から波が来たんです。前海からと、八戸方向からの横の波と。みんな『横から波が来た、それが怖かった』って言います。実は、うちの従業員の1人が、第2波で亡くなったんです。仕事の後、漁港の様子を見に行きたみたいで。...真面目な人でね、残念だったですね。」「三沢は『川目』という小さい川が一川目から六川目まであるんです。津波はそれを遡って、川沿いのお宅が被害を受けた。うちの配達エリアでも、全壊・半壊のお宅が十何軒ありました。」

▶久美子さん「四川目地区では、大きな船が2艘ぐらい打ち上げられてた。」

●震災以降、心境に変化はありましたか？

- ▶久美子さん「前は地震でも『平気だよー』みたいなところがあったけど、今は『この後強くなるかも』みたいな意識は出ましたね。特に2番目（京之介くん）の反応が素早い（笑）」
- ▶京之介くん「地震に対する危機感が強くなった。家族を大切にするようになった。友達とも仲良くしたい。」
- ▶重徳さん「ここは六ヶ所が近い。核燃料サイクル施設に何かあれば、ここもダメですから。安全だ安全だと言われてきたじゃないですか。でも福島を見て、原子力関連施設が近いという事実を意識するようになりました。」

●10年後は？

- ▶重徳さん「家族みんな健康でいられれば一番いいと思う。」
- ▶久美子さん「平平凡凡に楽しんで、毎日を過ごせたらいいと思う。どうせやるなら、楽しい感じがいい。」
- ▶信之介くん「全然考えたことないなあ...。」
- ▶雅ちゃん「サーティーワンのアイス屋さん？」
- ▶京之介くん「とりあえずは、今は医者になりたい。」
- ▶家族全員「ほおっ！」

【編集後記】今回の撮影場所は三沢漁港地区の漁民研修センター。1階窓を覆うブルーシートが、今も大津波の爪痕を伝えます。月舘さんご一家は、取り壊しが決まっているこの建物を記憶にとどめたいと、撮影場所を選んだそうです。岩手・宮城・福島の子供の被害の前にかすみがちだけど、青森県も東日本大震災の被災地。忘れないでいたいです。【前田ふひと】

【寄付総額】2011年6月～2013年10月31日まで、『¥1,966,136』を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。